えひめ やまなみ燦々 風景街道

西日本の最高峰であり古代から日本七霊山として敬われ、今日では日本百名山の人気上位にランクされる「石鎚山」（1982㍍）。その南麓を深く切り開いて巨岩・奇岩を彫刻のように飾り立て清流をほとばしらせている国指定名勝「面河渓」（おもごけい）。さらには高知県境にまで広がり日本三大カルストに数えられる眺望抜群の「四国カルスト」…。

日本風景街道

ロゴマークはコシノジュンコさんが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へと続いていくことへの願いをこめて表現した。

面河渓

霊場のおもてなしの心

わが国最高レベルの自然景観、観光資源に恵まれ、四国霊場八十八ヶ所の札所もあるという好条件を備えているのだから、愛媛県久万高原町の誇るこの日本風景街道に最近、外国人観光客が増えているのもうなずける。

「おまけに、四つのモデルルートには他にもすばらしいポイントがいっぱいです。どこも自然の豊かさがそれぞれの魅力を2倍にも3倍にも膨らませてくれている感じですが、長年育まれてきたお遍路さんへのおもてなしの心もぜひ体感してください」

面河渓の中心にある「五色河原」や「亀腹」を目の前に眺めながら休息できる町営「渓泉亭 面河茶屋」で、観光案内人兼調理人兼掃除婦をしているという女主人、中田直美さん（49）が熱くお勧めする。

各ルートの起点になっている道の駅「天空の郷さんさん」で、常駐の手づくり観光案内人を2年間務めているうちに、町の宝である現場で来訪者とふれあい語り合いたいと、今春から転職希望をかなえてもらったという。

登山道復元も

おもてなしのことならと、面河渓や石鎚山でのトレッキングガイド、クリーンアップ活動などを展開している「面河渓を愛する会」会長の白石崇さん（76）を紹介してくれた。

白石さんは愛媛大山岳会、愛媛県山岳連盟の会長を長く務めたが数年前に退いた。しかし、今も愛する山歩きは欠かさない元気さで、面河渓から御来光の滝（日本の名瀑百選）経由で石鎚山への昔の登山道復元に尽力した。

四国カルスト（上）と面河渓古道の修復

面河渓の自然

「ここは修験道の古道で、かつては一般登山客も利用していましたが、登山口まで行ける石鎚スカイライン開通後は廃道状態に。観光客にも面河渓のすばらしさを味わってもらえるようにと、仲間50人で愛する会を結成し、会員や企業の寄付金、町からの補助金と3年がかりのボランティア活動で復元しました」と白石さん。

また、中高年の登山ブームなどで増えてきた石鎚山の遭難事故対策として、登山道整備をはじめ痛んでいた愛媛大山岳会の山小屋を2カ所再建、1カ所修復して、寝袋や毛布、ストーブも備えた。

さらに、百名山クラスでもトイレが不十分で環境汚染も起きている現状を改善しようと有識者委員会を組織して、松山市でフォーラムを開催、愛媛県に働きかけて、地元石鎚山への環境配慮型トイレの新設にも奔走した。

こうした活動は、観光客へのおもてなしと同時に、地元を輝かせてくれるかけがえのない自然への感謝とお返し、奉仕なのだという。